

兵庫県真珠振興計画

平成31年3月

兵庫 県

この振興計画は、真珠の振興に関する法律（平成28年6月7日公布・施行）第3条第1項の規定に基づき、真珠産業及び真珠に係る宝飾文化の振興に関する基本方針（平成29年6月1日策定）（以下「基本方針」という。）に即し、真珠産業及び真珠に係る宝飾文化の振興の意義及び基本的な方向、真珠の需要の長期見通しに即した真珠産業振興の目標、真珠産業の振興のための施策、真珠に係る宝飾文化の振興のための施策並びに真珠の需要増進のための施策について定める。

第1 真珠産業及び真珠に係る宝飾文化の振興の意義及び基本的な方向

1 真珠産業及び真珠に係る宝飾文化の現況

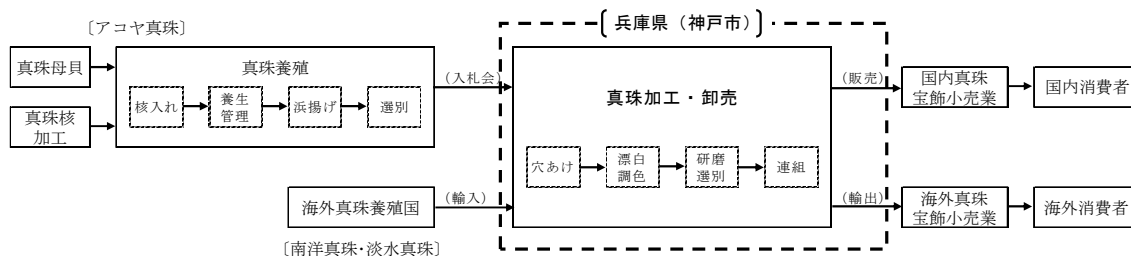
(1) 本県真珠産業の歩み

- ① 本県と真珠の関わりは、神戸港開港後の明治中期頃からと言われており、昭和3年の真円真珠特許公開後には神戸が真珠の集散地として活況を呈するようになった。
- ② 神戸において真珠加工業が発展したのは、(ア)三重、愛媛、長崎、熊本などのアコヤ真珠生産地に近く立地条件に恵まれていたこと、(イ)貿易都市として天然真珠の時代から長く輸出貿易を促進していたこと、(ウ)大正時代に北野町周辺に加工技術を開発した真珠業者が集まり、研磨や穴あけの加工技術が次々に開発されたこと、(エ)海と山に囲まれた神戸の自然環境による安定した採光条件が穴あけや連組み等の真珠加工工程に適していたことの影響によるとみられる。
- ③ 戦中・戦後の混乱期を経て、戦後間もなく海外への輸出が再開された真珠は、政府間貿易という管理貿易体制のもとで外貨獲得に重要な役割を果たした。また、進駐軍やその家族が持ち帰る土産物として人気を集め、さらに民間貿易が再開された昭和24年以降には、輸出はアメリカを中心に著しく伸長した。
- ④ 昭和40年代の輸出不振による不況期を克服し、昭和50年代からは安定成長を続けてきた。
- ⑤ バブル崩壊後は、アコヤ貝の異常斃死による浜揚げの激減、中国産の淡水真珠をはじめとする海外産真珠の生産量の増大、加工技術の一部流出と低コストを背景とする海外での加工品の大量生産などにより、市場が混乱した。
- ⑥ 平成21年度以降は、リーマンショックの影響等による輸出の減少から真珠加工出荷額が急激に減少したが、近年は輸出が牽引し、増加傾向にある（工業統計）。

- ⑦ また、本県には、養殖真珠の芯となる真珠核の産地がある。明治40年代に洲本市内で貝ボタンの製造が始まり、戦後、ボタンと同様に貝を加工する真珠核を手掛ける業者が現れた。昭和30年代に、合成樹脂系ボタンの浸透と世界的な真珠ブームを背景に、貝ボタン製造業者が一斉に真珠核製造に移行した。現在は、安価な外国産真珠核に押され、10社程度になっている（淡路真珠製核協同組合調べ）。

(2) 真珠産業及び真珠に係る宝飾文化の現状

- ① 兵庫・神戸では、国内で生産（養殖）されるアコヤ真珠と輸入された南洋真珠の加工及び輸出拠点としての役割を担っている。



- ② 神戸市内には約220社の真珠加工事業者が集積している。真珠加工事業者は中小事業者が多く、ビルやマンション等の室内に加工場をもち、穴あけ、漂白、調色、研磨、選別、連組、検査などの加工工程を行っている。
- ③ 真珠輸出の約8割が神戸から行われている（平成29年貿易統計）。輸出真珠の品質確保のため、日本真珠輸出組合（事務局：神戸市中央区）では、かつての国営検定制度を踏襲し、品質の検定基準として「日本養殖真珠規格（Cultured Pearl Quality Standard of Japan）」を定めている。検定基準以上の品質と判定されたものには、「Japan Pearl Exporters Association」のタグを付けている。
- ④ 神戸市において、西日本最大の宝飾展が開催されているほか、南洋真珠入札会が「国際保税展示入札会」として開催され、海外顧客の神戸来訪による国際的な真珠取引の増進が図られており、神戸は真珠の加工、取引の場として、また海水産真珠の集散地としての世界的地位を堅持している。
- ⑤ 県内真珠加工出荷額は、平成3年の808億円をピークに、リーマンショック後（平成23年）は104億円と約9割減少（工業統計）した。その後、日本真珠輸出組合を中心に香港等の国際宝飾展へ出展し、輸出の促進を図るなかで回復の兆しがみられる。一方、輸出額の約8割は香港向けになっており（平成29年貿易統計）偏りがある。

- ⑥ 神戸市において、貴重な地域の資源でもある真珠製品を、若者をターゲットにしたファッションショーでPRしているほか、神戸マラソン入賞者に贈呈するなど、各種イベントや公式行事における真珠の利用を促進し、真珠の魅力の発信に努めている。また業界の任意団体であるネオパール神戸等によるイベント・セミナー等の広報活動や、神戸旧居留地におけるまちづくりの取組も行われている。

2 真珠産業及び真珠に係る宝飾文化の課題

- ① リーマンショックによる真珠加工出荷額の減少に加え、外国産海産真珠の生産量の増加による国際競争が激化するなかで、優れた真珠加工技術による品質の高さに対する理解の促進を図る必要がある。
- ② 輸出の増加による回復の兆しはあるが、輸出先が特定の地域に偏っていることにより経済変動等の影響が懸念されることから、安定成長に向けた新たな市場の開拓が求められる。
- ③ 真珠加工現場では、将来的に高齢化・後継者不在により人材不足が懸念される。
- ④ 冠婚葬祭など県民生活の様々な場面において真珠の着用機会が減少している。
- ⑤ 地元においても真珠加工が地場産業であることを知らない県民が多いなど、神戸の真珠の認知度が不足している。

3 真珠産業及び真珠に係る宝飾文化振興の基本的な方向

今後10年を見通した長期的な視点から、国、県、関係市町、業界団体等との密接な連携のもと、① 神戸の真珠ブランドの確立、② 新たな輸出市場の開拓、③ 真珠産業の人材育成及び確保、④ 真珠に係る宝飾文化の県民生活への浸透、⑤ 需要増進に向けた神戸の真珠の情報発信を図ることにより、本県における真珠産業の健全な発展を目指す。

第2 真珠の需要の長期見通しに即した真珠産業振興の目標

- ① 基本方針では、世界の海産真珠生産額は2014年(平成26年)の400億円から2027年(平成39年)には560億円になると見込んでいる。これに基づき、国内真珠養殖業の生産額の目標を2014年(平成26年)の136億円から2027年(平成39年)には200億円にするとしている。

- ② 本計画においても真珠の需要の長期見通しを踏まえ、測定可能な県内指標として、真珠加工出荷額（工業統計）及び真珠輸出額（貿易統計）により、次のとおり目標を定める。

項 目	【現状】	【目標】
	2014年(平成26年)	2027年(平成39年)
県内真珠加工（装身具製品、装身具部品等）の出荷額（工業統計）※	202 億円	300 億円
神戸港・関西国際空港からの真珠輸出額（貿易統計）	195 億円	290 億円

※工業統計のうち、「3212 11 貴金属・宝石製装身具付属品、同材料加工品、同細工品」（真珠連、真珠のせん孔品等を含む）及び「3211 12 天然・養殖真珠装身具（購入真珠によるもの）」の合計値

第3 真珠産業の振興のための施策

1 加工の高度化

- ① 競争力を保持するため、技術とノウハウの結集による加工品質の維持向上を図る。
- ② 人の目に頼る選別等の工程については、画像認識技術の活用等最先端技術の導入についても検討・研究を進める。

2 流通の高度化

- ① 兵庫県で加工されるアコヤ真珠及び南洋真珠について、国内外においてその高い品質に係る認知度を高め、神戸の真珠のブランドが確立されるよう取り組む。
- ② 品質表示に係る基準を先導する神戸基準を策定し、業界への普及を図る。
- ③ デザイナーやクリエイターとの連携により商品価値を高める。
- ④ 全国的な連携のもと、産地、生産加工履歴等の情報の収集及び整備に取り組む。

3 輸出の促進

- ① アジアを中心に新たに創出される需要を捉えながら真珠の更なる輸出拡大を図るため、真珠産業及び真珠に係る宝飾文化に関する情報発信、真珠が固有に備える特徴を生かしたデザインの追及等による高付加価値化の促進及び海外展開に向けたブランド力強化に取り組む。
- ② 輸出先の多様化を図るため、米国・欧州・豪州や成長が期待される新興国などの販路拡大を促進する。

- ③ ブランド力を生かしたクールジャパン政策の活用、海外販路の拡大に向けた国内外の市場及び消費に関する情報収集及び提供、海外見本市への参加促進及び現地における出展支援、海外からのバイヤーの招へい等による商談の機会の創出、欧米及び新興国等における真珠購買層の探索等により、国際的な真珠集積地及び輸出拠点としての機能強化を促進する。

4 研究開発の推進

真珠の加工及び流通の高度化等を図るため、国、県、事業者、大学等の研究機関の連携強化の枠組みのもと、研究開発情報の共有を進める。

5 人材の育成及び確保

- ① 真珠加工の技術が円滑に継承されるよう、人材育成事業や技術者の顕彰制度の活用により後継者の育成を促進する。
- ② 県内労働人口が長期的に減少傾向にあるなかで、関連企業を支える人材確保を図るため、真珠産業の魅力の発信など人材確保のための取組を促進する。

第4 真珠に係る宝飾文化の振興のための施策

- ① 兵庫・神戸は真珠産業の重要な拠点であり、真珠が県民の生活に深く浸透し、県民の心豊かな生活の実現に重要な役割を担っている。このような本県における真珠に関する歴史及び真珠と県民の生活文化との関連に係る知識の普及を図るため、真珠に係る宝飾文化の一つである冠婚葬祭、公式な式典等における真珠の利活用の促進に努める。
- ② 気軽に真珠を楽しめるよう、家庭で活用されていない真珠のリフォームやリメイクの促進を図るほか、再利用が進むリサイクル市場の充実を図る。
- ③ 真珠の干涉色、照り、巻き及び形といった真珠が固有に備える魅力並びに本県の優れた加工技術が評価されることを基盤として日本の真珠のブランドが形成されていることを踏まえ、真珠に係るこれらの情報を国内外に発信するため、国際フロンティア産業メッセ等を活用した情報発信の機能強化に努める。

第5 真珠の需要増進のための施策

- ① 真珠の需要増進のため、真珠産業の各団体が連携して行うPR活動や品評会等の開催、ブランド力の強化のための取組を促進する。
- ② 兵庫・神戸の真珠産業・文化の発信力強化のため、真珠の展示・販売拠点のあり方について検討する。

- ③ 国が推進する真珠の博覧会、展覧会、展示会、品評会等の開催、消費者ニーズをふまえた商品情報の共有、ブランドの維持のための検定の実施等に協力して取り組む。
- ④ 国内外からの誘客拡大等に向けた観光業界等との連携を促進する。また、東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタースゲームズ、大阪・関西万博、県内で開催される各種国際会議等の全国的及び国際的なイベント等における積極的な真珠の利活用に努める。
- ⑤ 真珠、真珠母貝等の有効活用や異業種と連携した真珠の利活用を促進する。
- ⑥ 長期的な真珠の需要増進のため、若い世代に向けたPR活動を促進する。